

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム きつとうっど
(ユニット名)	きつとユニット・うっどユニット 共通
所在地 (県・市町村名)	奈良県御所市364-1
記入者名 (管理者)	館長 鶴田 浩史
記入日	平成 21 年 3 月 6 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目
 ↓

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	グループホームきっとうっどのスタッフの会議において、行いたいケアを持ち寄り、方向性を確認した上で作成したものを掲示している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	職員間の連絡用掲示板に掲示し、常に目に触れるように配慮し、又、会議などでも啓発している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	契約時には、グループホームきっとうっどの理念をご理解いただくと共に、その中での日々の様子を担当職員より定期的に手紙を送らせていただいている。地域へは、見学等を積極的に受け入れ、その際に、グループホームきっとうっどの理念等の説明を行っている。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	出勤や退勤の際等、よく世間話などで馴染みの関係となってきたり、また、買い物も近隣の商店等で行い、利用者と共に地域の方との会話を心がけている。隣等からは、作った植木等を頂いたりしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	地域の自治会に加入し、掃除や行事にも参加している。また、近隣の小学校とは定期的な見学会や交流会を開催し、再度遊びに来ていただけるような啓発を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者に週に1度足を運んでいただき、運動や認知症にならないための予防教室を開催している。また、市の教室等に認知症についての講義を行い、認知症への理解と予防の啓発に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、結果等を適時ミーティングで検討し、サービスの改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、入居者やご家族に参加いただきながら、忌憚のない意見を頂き、また、地域の方々からも一般的な意見を参考にしながら、次回の会議までに改善を行うサイクルでサービス向上に活かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、他の居宅支援、通所介護、訪問介護の管理者を行いながらも、介護支援専門員を兼務していることで、頻回に市に足を運ぶ機会を有しており、随時情報交換を行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度をご利用の利用者がおられ、物品の購入の際や様々な機会に担当の弁護士の方と連絡を取り合い実践の中で学べる機会がある。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ここのケース会議において、どのようにすれば良い関係性を継続し、虐待につながらないケアについて話し合う機会を設け、防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>当ホームでは、事業の主任により文章や口頭にて十分な説明を行い、不安や疑問に関しても、いつでもご相談いただける体制を取っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議では、利用者より意見を頂く時間を設けており、その際には管理者、職員、地域の方々が不満や苦情を聞けるような機会を設けている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>健康状況等の変化には随時電話等で連絡を行い、また、定期的に担当者より手紙を送ることで最近の様子を情報提供を行うこととしている。</p>		<p>定期的に写真や手紙を送っているものの、ホーム内にも利用者事のアルバムを設けている。ご家族とご本人様が一緒に眺めていただけるような支援を行っていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議では、ご家族より意見を頂く時間を設けており、その際には管理者、職員、地域の方々が不満や苦情を聞けるような機会を設けている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者と職員が運営に関する会議を行う事業主任会議を設けており、また、運営者とは、法人全体のリーダー会議を設けている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事やイベント事等の際に柔軟な人員の調整ができるように、職員間での勤務時間の調整を行える体制となっている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>昨年度異動を行い、利用者の影響を最優先に検討し、利用者へのダメージを最小限に行うように配慮した検討を行った。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用等の際には、トレーナーをつけ各役割に応じて順番に習得していただける体制を取っている。経験に併せて様々な役割を増やすなどスキルアップへの取り組みを行っている。		現職のスタッフに関しても、同じ内容であっても再度振り返り勉強できるように、年間の研修スケジュールを再検討していきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平成18年4月開所以降、1年に2度開かれる認知症介護実践研修に毎回派遣し、学習だけではなく、他のグループホームとの情報交換等を行っている。また今年は実践リーダー研修を受講し、新たな横のつながりを作ることが出来た。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者が積極的に職員の声を聴きながら悩みやストレスの元となる原因を把握するなど取り組んでいる。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	総合施設長(運営者)が奈良県の認知症研修の指導者ということもあり、日常業務の中で積極的に学習の機会や情報などが手に入る。学習の環境は整っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居面接時、家族様に生活歴のシートをお渡しして本人様について知っていることを書いていただくように協力していただいている。その他、施設パソコンの日記記入コーナーに「エピソードコーナー」を作り日々の会話などで本人様の情報となるようなことを書きとめておき、援助の材料となるようにしている。		「エピソードコーナー」が一時の盛り上がり欠けるため再度より個々の利用者の事をしれるような取り組みを行いたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居面接時、家族様とじっくりとお話することで様々な面で、家族様の困り事や意向を伺うようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居面接時、入居後ご利用者がどのようにすれば落ち着いて過ごしていただけるかを、家族様と共に考え、一緒に安定に向けた計画を検討していけるようにしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人、ご家族が安心して過ごしていただけるように、入居後も家政婦やご家族の協力を得ながら、徐々に馴染んでいただけるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人で出来る事は出来る範囲内で行っていただく様声かけを行い、一緒に行っている。調理や生き方に関してもご利用者から教えていただくことも多い。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居時の面接時に出来るだけ家族との関係、生活について話を伺い、入居後の生活の参考にしている。生活歴シートにも記入を頂き参考にしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族がこれまで支援助いた居ていた部分は、支障がない範囲内で、継続して行っていただいている。ご家族との外泊にも可能な限り援助を行っている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方々にご入居いただくことで、美容室、病院、習いもの、買い物場所を継続することが出来、最大限に活用している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご入居時は可能な限り、入居までの関わりや性格等を伺うことで関わりを援助を行うが、時間が経てばご本人の残存能力により関係を形成いただくように支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後もご家族にはグループホームで過ごしていただいた際のアルバム等でどのように過ごしていただいていたのかを振り返ることが出来るような機会を設けている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お風呂、食事、買い物、散歩等の様々な生活の場面に関して一人一人の意向を伺い実現が出来るように配慮を行っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様より生活歴シートを書いていただくことや、スタッフとの会話の中で得られたこれまでの生活に関わる内容は、「エピソード」として記録を行えるようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の様子を日誌に記録し、カードックスにより身体の状態の変化を把握し、申し送りでは1日の様子を切れずに引き継がれていくように把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のC-1-2シート(私の姿と気持ちシート)を活用し、本人、家族、職員の意向を考え、それに対して可能な限り実現を行えるように努力を行っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月全員の個別のケースに関して、ケース会議を開き、現状の課題や今後の方向性などを決めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫を記録し、日誌、ご利用者ファイルに活用している。また、月に1度全利用者に関するの処遇会議を行い見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物、通院、散髪、敬老会等利用者に合わせた対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ご家族の方がボランティアとして音楽会を開催していただいたり、近隣の保育園と合同で催しを行うなど地域の方々の協力を得ている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現時点で他のサービスの必要性や意向はないが、必要に応じて訪問看護や医療系のサービスを中心に支援をしていきたい。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度のご利用者が居られるため、地域包括支援センターと連携を行いながら進めている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居前の馴染みのかかりつけ医からの変更をせず、意向に添った形でのかかりつけ医の選定を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	御所市に老人認知症疾患センターがあり、また認知症の専門医が居られるため、必要に応じて受診や治療を受けられるよう支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームで看護師を配置し、日常の健康管理を行っていただいている。法人の看護職員にも常時協力体制を整えている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	法人で協力病院として入院先を確保し、医療相談員との協働で情報交換、相談に努め、早期に退院できるようにしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	癌末期で余命が宣告されながらも、身体的にはグループホームで対応可能な方であるため、医師・看護師・家族と連絡を密に取りながら本人・家族の意向に添えるように職員で話し合っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化される前にあらかじめ「出来ないこと」を想定することなく、かかりつけ医、ご家族と相談をしながらこのケースに併せて可能な限り出来ることを検討していき、ご利用者を支援していきたい。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在までで重度化や終末期の対応はないが、管理者、主任が住み替え先と話し合いや情報交換を行い、ダメージを防ぐことに努める。法人には、特別養護老人ホームも運営しており、ご家族と相談をしながら必要な選択肢を提示していくことを検討している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者の1人1人の尊厳を尊重し、1つ1つの介護に声かけを行っている。また、個人情報を規定に則り対応を行っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>調理、掃除、洗濯等を一緒に行いながらの自然な会話、その人にあったコミュニケーション、意向の聞く努力を行っている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な利用者全体の流れはあるものの、その人らしく自分の生活のリズムを大切に過ごしていただいている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>馴染み美容院や理髪店を予約してご利用を頂いている。訪問理容も適宜利用。衣類や化粧品等も個人にあった物を購入していただける様に支援を行っている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>出来る方には積極的に調理をお願いし、味付けも入居者の口に合う様に入居者の方々を中心に行っていただいている。片付けも基本は入居者で行っていただいている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>喫煙スペースを設け喫煙はしていただいている。買い物に関しては、定期的にスーパーに行くことや、近隣の商店には随時対応を行っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者に合わせたトイレへの声掛けや、オムツを選定を心がけている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望はないが夜間入浴も可能であり、21時頃までは希望された時間・頻度で対応を行っている。また、入浴嫌いな方には環境を変えるなど違った浴室での入浴も試みている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼夜逆転や不眠・浅眠が見られる入居者には日中の出来事の過ごし方や行ったことなどを把握し、散歩や読書、買物、家事など日中活動を行っていただいで改善に向けている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	全員で決まって何かをすることは行わないようにし、お茶や書道などの他、調理などの家事などで各入居者の好みや得意とすることに力を入れ援助している。最近では下肢筋力の低下もあり、運動を取り入れ気晴らし等を図っている。		入居者のADLの低下に伴い、ホーム外への習いものやカラオケに行かれるかたが少なくなってきた。ADLにあった新たな取り組みを検討する必要がある。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週に1度の買い物の際には行っている。ご本人の能力に合わせたお小遣いは管理していただいている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩や買い物等は、随時対応を行っている。また、定期的に小学校や保育園の行事に参加するなど外出の機会を大切にしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居前では行くことが難しかった場所(化粧品店、同窓会)への外出支援を行い外出も行っていただいている。		入居者のADLの低下に伴い、ホーム外への習いものやカラオケに行かれるかたが少なくなってきた。ADLにあった新たな取り組みを検討する必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話取り次ぎ可能な制限もなく、入居者ご自身も自由に電話をご利用いただける環境にある。手紙交換をされておられる方もおられ、積極的に支援を行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は自由であり、自室への訪問も自由に行っていただいている。中には、宿泊をされるご家族様もおられる。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を元に作った身体拘束マニュアルがあり、遵守している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中に関しては玄関は開放されている。自室の鍵に関しても内鍵で利用者が自由に施錠・解錠を行っている。夜間は防犯上等の観点から玄関・フロアには施錠を行っている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中・夜間を問わず決まった職員が1時間毎に所在確認を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	内服薬などはスタッフルームに保管し、スタッフ不在となる時は施錠を行う。洗剤などは常時施錠できる所に保管。刃物は夜間の時間帯は1カ所に回収している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	アクシデント、インシデントシートを活用し、全スタッフが把握できるようにし、事故防止に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	例年、年に一度救命講習を受ける機会を設け、全員が定期的に学べる環境を作っている。		現時点で夜間の1名夜勤に関して、不安を感じている職員が多い。夜勤2人体制等、急変時や事故発生時の対応がスムーズに行えるようにしていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2度の消防訓練を行い、利用者と共に避難の方法を訓練している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご自身意向を尊重しながらも、リスクのあることにはご家族の了解を得ながら一緒にご自身の意向をかなえられるよう取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルサインのチェック、食事摂取量や排便を専用簿ファイルに記録している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医師と連携し必要に応じて薬の説明や作用、注意など随時指示を受けている。またそれを職員が周知出来るよう日誌やカードックス等を使用している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、排便チェック・水分補給・適宜下剤使用を行いながら快適な状況を維持できるように支援を行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食時に個別に必要性に応じ行っている。また、毎晩入れ歯外し洗浄を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定時の水分補給は行っている。食事は本人の意向に添いながらも把握し、必要な支援を行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の防止に常時努めている。感染症に関するところは特に注意し、念入りに行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関にご利用者が自宅で育てておられた植木や草花を持参していただき、育てていただいている。また、近隣からも植木などを頂き飾っていただいている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には植木や草花。ベランダにもプランターで花を育て、洗面や食卓には常時花を生けている。家具等は一般家庭用を使用し、生活感を出せるように配慮している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段はリビングにて食卓や、ソファーでくつろいでいただけるような環境を作っている。それ以外にも廊下にソファーを置き、またリビングの先には和室を設け、様々な場面で居場所を作っていただけるように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド等を含め、全ての物を自宅から持ち込み、出来る限り新調もしていただかないように声をかけている。また、具体的に持ち物としては、刃物以外は持ち込みを拒んでいない		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日定時に外気を入れたり、適宜配慮を行い換気・空調管理を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	和室(畳部屋)の出入りに隠し階段を設けている。その他、車椅子用トイレを設置。浴室は手すりを取りつけている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご自身の部屋には自作の表札を作り、壁紙は部屋毎に変えている。自分の食事場所には、ご自身の似顔絵の入ったランチョマットを作成している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターに草花を植えている。また、野菜作りや干し柿等を作り屋外にも活動の場所を作れるよう配慮している。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)